



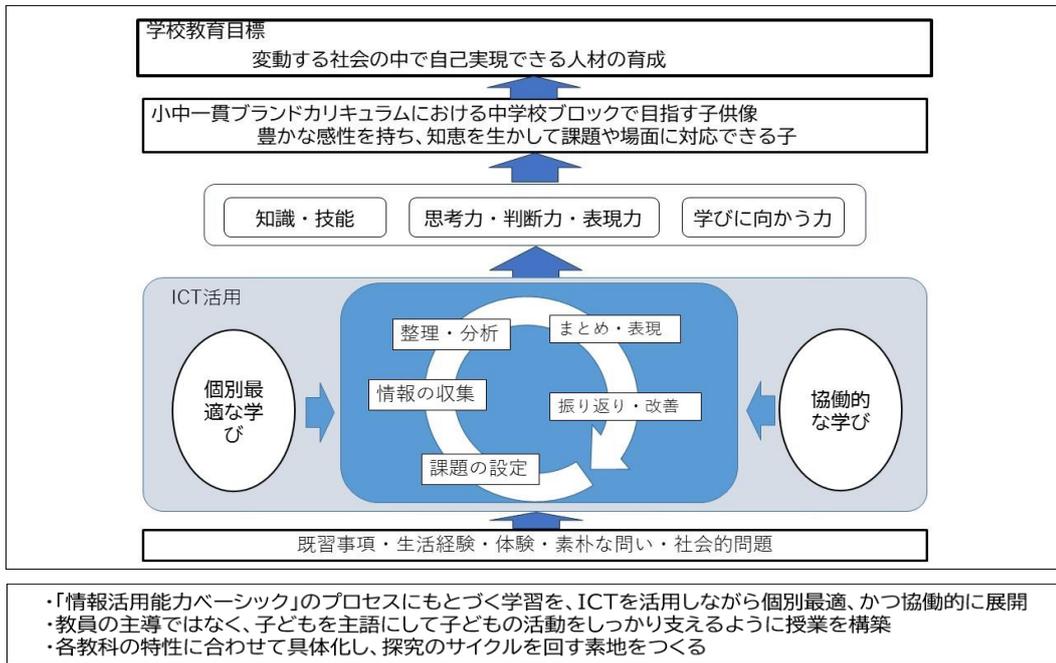
### 3 研究経過

#### (1) 1年次（令和5年度）の取組

##### ①研究計画づくり

放送大学中川一史教授、同佐藤幸江教授のご指導のもと、「情報活用能力ベーシック」を活用した授業実践の理論と実際を学ぶことからスタートした。両教授からは、情報活用能力を身に付け、情報の要・不要を自身で決定できるようにすること、「情報活用能力ベーシック」はあくまで指標であるため、どのような段階でどのように学習していくかの具体化は各学校で議論しながら進めていくことをご指導いただいた。

そこで、本校の研究イメージと、本校で育成を目指す情報活用能力一覧を研究推進委員会を中心に作成した。



令和6年度 豊富小中学校 情報活用能力一覧				
プロセス	項目	前期(1~3年)	中期(4~6年)	後期(7~9年)
① 課題の設定	日常生活や事象、見学・実験・観察などを通して問題意識を持つ	体験・経験をもとに気づきや疑問を出し合い、学習課題を見つけることができる。	体験・経験との共通点・相違点をもとに気づきや疑問を整理し、学習課題を設定することができる。	体験や経験、既得事項をもとにして社会や自己に対する問題意識を高め、主体的に学習課題を設定することができる。
	根拠ある予想や仮説を立て解決方法を考える	体験・経験をもとに予想することができる。	体験・経験をもとに根拠のある仮説を立て、解決方法を考えることができる。	結論・過程を想定した仮説を立て、効果的な解決方法を考えたり、修正したりすることができる。
	達成すべき目標を明らかにする	目標に対して見通しをもった活動を行うことができる。	目標を決定し、達成するための学習過程を設定することができる。	主体的に目標を設定し、達成するための学習過程を設定したり修正したりすることができる。
② 情報の収集	実体験や実験・観察、聞き取りなどで複数の一次情報を収集する	経験や実験、聞き取りをもとにして情報を収集することができる。	観察や実験、聞き取りなど多様な方法で多面的・多角的に情報を収集することができる。	課題解決の見通しをもった効果的な情報収集を行うことができる。
	本や新聞、インターネットなどの複数の二次情報を収集する	検索の技能を高め、図書資料・インターネットを使って情報を収集することができる。	出典の正確さや著作権を考慮しながら、目的に応じた手段で多面的・多角的な情報を収集することができる。	新聞や図書資料、インターネット、生成AIを活用して情報の信ぴょう性を意識して漏りのない情報を収集することができる。
③ 整理・分析	文章などの情報の意味を正確に理解する	情報を正確に読み取り、理解することができる。	情報の構成・要旨を正確に把握することができる。	情報を整理・処理し、効果的にまとめることができる。
	観点を定めて異なる情報を比較・分類したり関連づけたりして整理する	複数の情報を比較・分類・関係づけ、因果関係を見出すことができる。	複数の情報を比較・関連付け、概念化したり法則性を見出すことができる。	情報の価値づけ、多面的・多角的に処理したり考察したりすることができる。
④ まとめ・表現	対話によって多面的・多角的に伝える	対話により多様な考えを共有・比較・分類・関係づけすることができる。	多様な意見を関係づけ整理し、よりよい納得解を創造することができる。	
	伝える目的を考え、情報を取捨選択し、伝えたい内容を明確にする	必要な事柄を選択し伝えることができる。	情報を取捨選択し、伝え合う内容を検討することができる。	伝達効果を意識し、内容や方法を選択することができる。
⑤ 振り返り・改善	自分の思いや意図が伝わるような適切な語句や表現を選び工夫して伝える	資料や具体物を使いながら表現することができる。	必要に応じて資料を提示し、自分の考えが伝わるように工夫して表現することができる。	考えたことの妥当性を意識しながら、文章の構成やグラフなどを適切に使用し、自分の解釈を加えて説明することができる。
	考えた根拠を示しながら議論する	理由を添えて自分の意見を伝えることができる。	自分の立場を明確にし、経験したことや調べたことを根拠に議論することができる。	様々な立場を想定して経験や情報を整理し、多角的・多面的に考えながら議論することができる。
⑥ 振り返り・改善	学習した内容を自分の言葉でまとめる	学んだことを表現することができる。	課題解決の過程を振り返り、積み上げ、学習や生活に生かすことができる。	課題解決の過程の振り返り、探究方法の改善を行うことができる。
	自分の学習方法を評価・改善し、次に生かす	学習をもとに次時への課題を見出すことができる。	学習をもとに自身の学びを評価、新たな課題を見出すことができる。	自身を多角的に評価し、新たな課題を見出すことができる。
	自身の変化や成長について振り返る	自身の成長に気付くことができる。	短期的・長期的な自身の変容を捉えることができる。	自身の成長や変容を捉え、生き方を考えることができる。

情報活用能力一覧は、9年間を前期（1～3年）、中期（4～6年）、後期（7～9年）に分け、9年間を見通してどの段階でどのような力を育成するかを整理したものである。この一覧にもとづいて、各学年で系統立てて実践を行うこととした。

### ②カリキュラム（「年間指導計画」）の作成

「情報活用能力ベーシック」の5つのプロセスを全学年でまんべんなく行うために、全職員で学年別の年間指導計画を作成した。前述のように教科ごとに特性があり、さらには単元によっては「情報活用能力ベーシック」にもとづく学習展開のしやすさが異なってくる。学年によって偏りが起きないように、月1回は5つのプロセスが必ず入るように、教科横断的に計画を立てていった。

令和6年度 第7学年 年間指導計画										豊島小中学校 後期課程	
	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語	『風の五臓六腑』の書きかき直し 『風の五臓六腑』の書きかき直し										
社会	世界の姿	日本の姿	歴史の流れと時代区分	人類の登場から文明の発生	中国にならった国々（くわ）	ヨーロッパ前	ヨーロッパ前	北アメリカ前	オセアニア州	北アメリカ州	大航海による結び付き
数学	1正の数・負の数	2文字の式	3方程式	4変数と対応	5平面図形	6空間図形	7資料の活用				
理科	いろいろな生物とその共通点	身のまわりの物質	自由研究①	自由研究②	自由研究③	自由研究④	自由研究⑤	自由研究⑥	自由研究⑦	自由研究⑧	自由研究⑨
音楽	『手紙の歌』を学ぶ										
美術	『手紙の歌』を学ぶ										
技術	『手紙の歌』を学ぶ										
体育	陸上競技										
総合	自然観察										
英語	0 Welcome to Junior High School	1 Our New Teacher	2 Club activities	3 Friends in New Zealand	4 A Japanese Summer Festival	5 A speech about My brother	6 Foreign Artists in Japan	7 A Surprise Party My Hero	8 Think Globally, Act Locally	9 Winter Vacation	10 My Favorite Event This Year
道徳	サッカーのルール										

### ③授業実践

実践にあたり、全学年での共通事項として、黒板に「情報活用能力ベーシック」の各プロセスを掲示するシートを作成し、全クラスに配置した。これによって、教師のみならず子どもたちにも5つのプロセスを視覚的に意識できるようにした。

また、授業はできる限り子どもたちに委ねることを意識し、自分たちで問いを設定したり課題を解決したりできるように、学習の形や教師の役割を模索していった。

①課題の設定

②情報の収集

③整理・分析

④まとめ・表現

⑤振り返り・改善



## (2) 2年次（令和6年度）の取組

### ①「教科別ベーシック活動系統表」の作成

1年目の取組をさらに進めるために、教科部会を設定した。全教科に前期・後期の担当する教師を配置し、学習内容や方法を協議しながら各教科の学習を系統的に推し進められるようにした。これにより、学年団を横軸に教科部会を縦軸にして、系統的かつ教科横断的に研究を行うことが可能となった。

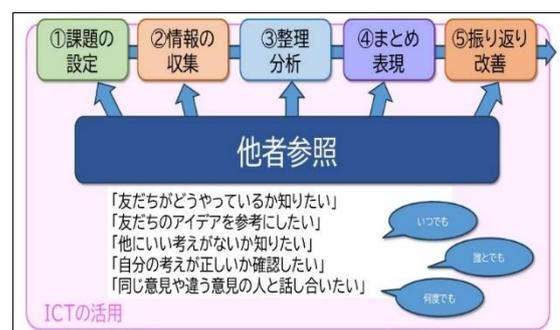
実際の授業では、各教科の見方・考え方を生かしながら学習が進んでいく。それぞれの教科に特性があり、活動の仕方も異なっている。そこで、1年次に作成した「情報活用能力育成の系統表」をもとに、各教科で「教科別ベーシック活動系統表」を作成した。これは、各教科で、「情報活用能力ベーシック」のプロセスにもとづく学習活動をどのように行っていくかを「活動ベース」でまとめたものである。一覧表作成の際には、全員が教科部会に分かれ、9年間を見通してどのような活動をしていくかを話し合いながら作業を進めた。

また、「教科別ベーシック活動系統表」をもとに、1年次に作成した「情報活用能力一覧」と「年間指導計画」を改訂していった。

社会				
プロセス	活動	前期(3~4年)	中期(5~6年)	後期(7~9年)
①	自分が知っていること・これまでの経験から疑問を出し、資料をもとに、自分が知っていることと実際の事象とのギャップから課題を設定する。課題を解決するために、予想や仮説を立て、解決方法を考える。	身近な地域や自分自身の生活に関することから課題を発見する。どのように課題を解決するか話し合い、課題解決の計画を立てる。	我が国の国土・産業・歴史や、世界の人々との共生に関することから課題を発見する。課題に対して経験や既習事項をもとに予想や仮説を立て、検証するための計画を立てる。	社会的事象に見られる課題を発見する。課題に対して多面的・多角的に仮説を立て、検証するための計画を立てたり修正したりする。
②	調査活動や諸資料の活用など、手段を考えて適切に資料を収集する。	見学や聞き取り調査、地図帳やコンピュータを用いて課題解決に必要な情報を集めたり、地図や写真、年表などの資料から情報を読み取ったりする。	情報の不確実性及び、見学・聞き取り調査・地図帳・コンピュータなどの情報の収集手段の特性に留意して情報を集めたり、地図や写真、年表、統計などの資料から、事象の広がりや経過などを適切に読み取ったりする。	観察や野外調査、訪問調査等の様々な調査や、年表や地図、文献、図表、写真、統計資料、実物等の諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を適切かつ効果的に収集する。
③	収集した資料と自分の生活やこれまでの学習内容を比較する。(気候、産業...) 資料を分類したり、総合したり、関連付けたりして考える。	収集した情報に対し、場所や人々の相互関係等に着目してどのような違いや共通点があるか比較・分類したり、自分の地域や人々の生活と関連付けたりして考える。	事象の広がりや時間の経過、人々の相互関係等に着目し、複数の情報を比較・統合したり、国民生活や世界における我が国の役割と関連付けたりしながら考える。	各分野の特色に応じて、提示された課題(問い)や生徒の課題意識から、時系列に沿った整理や地理的な条件から整理する。また、比較・分類したり総合したり、他の社会的事象と関連付けたり、多面的・多角的に考察する。
④	年表にまとめる。 白地図に学習したことをまとめる。 考えたことを説明したり、それをもとに議論したりする。	調査で得た情報をもとに考えたことや選択・判断したことを文章で記述したり、白地図や年表、図表などに表したことを使って説明したりする。	考えたことや選択・判断したことを白地図や図表、年表等にまとめたり、それらを使って根拠や理由などを明確にして論理的に説明したり、他者の主張につなげ立場や根拠を明確にして議論したりする。	各分野の特色に応じて、事象を説明したり、論拠を基に自分の解釈を加え説明・論述したり、議論や意見交換したりする。また、合意形成や社会参画を視野に入れながら、構想したことについて、妥当性や効果、実現可能性等を踏まえて表現する。
⑤	学習内容やまとめを振り返り、自分が社会の一員としてできることを考える。	学習を振り返り、学習成果をもとに生活の在り方やこれからの地域社会の発展について考える。	学習を振り返り、学習成果をもとに生活の在り方やこれからの国家及び社会の発展について考える。	学習内容・活動に応じた振り返りを行い、学習成果をもとにしてこれからの国家及び社会の発展について考える。また、自らの学習の進め方や学習成果を改善したりする。

### ②他者参照の推奨

子どもが主体的に活動する授業づくりのために、「他者参照」を学習に取り入れることを共通理解した。学習における「他者参照」とは、友だちの考えを取り入れながら自分の考えを広げたり深めたりすることである。思考の途中で「他者参照」を行うことで(途中参照)、学習によるつまずきの解消につながる



ったり、対話的な学びにつながったりするため、主体的な学びを促すことができると考えている。さらに、ICTを活用することで、時間や空間を越えて、いつでも、誰とでも、何度でも「他者参照」を行うことができる。本校では、「情報活用能力ベーシック」の全てのプロセスにおいて「他者参照」を積極的に行うことを前提に授業をつくることとした。

### ③振り返りの充実

毎時間や単元の終末における振り返り活動にも重点を置いた。「情報活用能力ベーシック」の「振り返り・改善」にあるように、情報活用能力の育成において、自身の学び、成長や課題を振り返ることは大変重要である。これは主体的な学びの実現にも大いに関わってくる。教科や学年によって形式は異なるが、以下のようなことに留意しながら振り返り活動を行った。

- ・学習内容の振り返りだけではなく、自分の学び方についても振り返ることができるようにする。
- ・「情報活用能力ベーシック」の「課題の設定」と照らし合わせて、学習前と学習後の自己の変容を見取れるようにする。
- ・振り返りを1枚のシートにまとめ、単元全体を通して学びを振り返ることができるようにする。
- ・「楽しかった」「難しかった」などの感想にならないようにする。
- ・振り返りを共有し、「他者参照」しながら振り返ることができるようにする。

### ④授業実践の日常化

「情報活用能力ベーシック」は全学年、全教科で継続的に取り組むものである。したがって、毎日の授業の中で「情報活用能力ベーシック」を意識しながら、いつもの授業+αの実践を積み上げるようにした。実践は「実践記録」として簡単にまとめるようにした。多忙な職務の中で授業を大きく変えるのではなく、できるところから子どもたちに委ねてその成果や課題を共有できるようにした。

作成した授業記録は、「情報活用能力ベーシック」のプロセスごとに整理して保存しデータベース化することで、いつでも閲覧できるようにした。年間を通して80以上の実践記録が集まり、次の授業づくりの参考になっている。

教科	6年家庭科	単元名	レットトライ 生活の課題と実践 わたしの仕事 スペシャルデー～家族のために～	本時	1/2
本時のねらい	これまでに身につけた基礎的な知識及び技能を活用し、家数との協力や健康・快適・安全などの観点から、家庭の仕事の計画を考え工夫することができる。				
情報活用能力ベーシックのプロセス	【課題の設定】日常生活、家庭生活の中から課題を見出し、課題を設定する。			ベーシック番号	①
学習のおおまかな流れ	授業のポイント(他者との協働・ICTの活用)				
1 題材全体の学習の流れと本時のねらいを確認する。	ステップ1 課題を決める ステップ2 計画を立てる		→本時 →長期休業中		
2 自分の仕事の計画を立てる。	ステップ3 実践する ステップ4 実践を振り返る ステップ5 実践を評価し、改善案を考える				
3 グループになり、自分の計画について友だちに伝える。また、友だちの計画を聞き、よいところや参考にしたいことを伝える。	「これまでの家庭科の学習をふりかえり、家庭の仕事を手伝う・住居の維持ができるようになったこと(できそうにないこと)」を考慮して発表させる。(個人・スライド) 長期休業の1日を「家族のためのわたしの仕事スペシャルデー」のような役割を立てる。(個人・スライド) グループになり、自分の計画について発表したり、友だちのアドバイスを聞き、2冊の見直しをしたりする。(他者参照) ・ステップ5で実践発表を行うことから、家庭での実践中に写真などの記録をとってよく伝える。(写真記録・カメラ)				
4 友だちのアドバイスを聞き、計画の見直しをする。					

教科	理科	単元名	地面を流れる水のゆくえ	本時	3/6
本時のねらい	雨水がどこへ流れていったのかをまとめる活動を通して水の流れについての理解を深める。				
情報活用能力ベーシックのプロセス	校庭の地面のかたむきを調べた結果をもとにスライドに水の流れを整理する。			ベーシック番号	③
学習のおおまかな流れ	授業のポイント(他者との協働・ICTの活用)				
1 課題を確認する。	課題の水の流路について調べたことを整理しよう。			○雨の日の様子を観察し、設定したスライドを配布する。 ○校庭で調べた地面のかたむきについてスライドに思いが強い方へ矢印で示すように指示する。 ○グループで結果について話し合わせ、結果を記録させる。 ○矢印の先にグレーニングがあることを確認し、地面のかたむきが低く、水が流れていく先に設置されていることを確認する。 (児童の様子)	
2 調べたことをスライドにまとめる。	3 全体で比較し、校庭の水の流れについて整理する。				
4 本時をふりかえるとともに、次時への課題をつかむ。	-調べた目録に調べた結果を用いるの目録に合わせることで地面のかたむきと水の流れとの関係がとらえやすく、理解を深めることができた。				

## ⑤公開授業

1学期に2本、2学期の義務教育学校実践研究発表会に合わせて6本、3学期に1本の公開授業を行った。授業内容については以下の通りである。

### (1学期)

2年生 算数科「長さ」【①課題の設定】

7年生 家庭科「生活を豊かにする製作」【②情報の収集】

### (2学期)

1年生 算数科「かたちづくり」【④まとめ・表現】

3年生 理科科「じしゃくのふしぎ」【③整理・分析】

5年生 体育科「跳び箱運動」【③整理・分析】

6年生 社会科「戦国の世の統一」【①課題の設定】

8年生 英語科「Homestay in the United States」【④まとめ・表現】

9年生 音楽科「曲に込められた思いを感じ取り、構成を生かして歌おう  
～大地讃頌」【③整理・分析】

### (3学期)

4年生 道徳科「わたし、まちがってないよね」【⑤振り返り・改善】



研究発表会では、様々な学年や教科で学習の様子を公開することができた。講演会では、中川教授より、「ICT活用は初期の混乱を経て、子どもが自律的に使い始める転換点で大きく伸びる。その成長を支える土台が『学びに向かう力』であり、主体的に学ぼうとする力があってこそ、ICTの効果は最大化される」というお話をいただいた。

2年目に授業実践を積極的に行ったことで、自ら学びに向かう子どもたちが増えた。また、教師にとっても、子どもたちの学習活動を保障し、学びの様子をしっかりと見取る力をつける絶好の機会になったと感じている。

### (3) 3年次（令和7年度）の取組

#### ①グループ別実践研究

2年間の研究で情報活用能力ベーシックに基づいた実践が蓄積されたため、3年次はこれを共通の土台としつつ、各教師の課題意識・スキルに応じて研修内容を選べるようにした。「自律した子どもの育成」という共通課題のもと、教師も主体性をもって授業改善に臨む姿勢を大切にしたいと考えたためである。枠組みとして「子どもに委ねるグループ」「協働的な学びグループ」など、昨今の指導観や児童生徒の実態、自身の課題をふまえた6つのグループを設け、それぞれで互いに参観したり協議したりしながら授業研究を進めた。

前期と後期の教師が、それぞれ関心のある同一のテーマで研修を進めることで、9年間の見通しを意識した授業づくりにつながった。また、チーム内で専門性を持ち寄りながら共に高め合おうとする姿勢も見られた。教師自身の授業改善に対する主体性の高まりは、子どもの豊かな学びを支える基盤になると考えている。

#### 課題別グループ

- ①主体性を育む課題の設定
- ②思考力・判断力・表現力の育成
- ③振り返りの充実・学びの可視化
- ④子どもに委ねる学びの在り方
- ⑤個別最適な学びの在り方
- ⑥協働的な学びの在り方

グループ名	主体性を育む課題の設定	
授業者		
課題	児童自身で課題を設定するためには、どのような教師の援助が必要なのか	
手立て	理科・総合的な学習の授業の中で、課題を設定する機会を設ける。クラス全体一つの課題を話し合ったり決めたり、個人で課題を決めたりする際に、他者参照ができるようにしたり、グループで話し合ったり決められるようにする。授業の後には、振り返る時間を取り、そのような授業形態で児童自身がどう感じるかを確認したい。	

学年	教科	単元名
4年	理科	閉じこめた空気と水

支援のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>他者参照しやすいようにする</li> <li>課題を見つけていく児童のために、全員で探した不思議を自由に使えるようにする。</li> <li>課題を絞る際、視点をもたせておく。</li> </ul>
子どもの様子・写真	<p>・指で話し合う時間に、課題が思い浮かばない児童は、クラスラウンドの共同編集から課題のヒントを探していたため、他者参照が有効な手立てだった。</p> <p>・課題の中に、自ら期することが出ていた。それが気になる児童が多かったが、「一番基礎になること」という視点をもたせたため、その後課題を絞りやすかった。</p> <p>・グループで話し合うことで、様々な意見に触れられるという意見も挙がっていた。</p> 
成果と課題	<p>アンケートの結果、課題を考えるときに、日常生活や実験結果の不思議から、課題を設定していくことには、肯定的な児童が多かった。また、4年生58名のみのアンケート結果だが、課題をみんなで見つけて解決していく、自分の調べたいものを課題とすることを重要視する結果が出たため、やはり自分たちの考えた課題を輸入していくことは主体性につながる感じた。</p> 

グループ名	協働的な学びの在り方	
授業者	前野翔太	
課題	協働的な学びの質を高めるためには具体的にどのようにすればよいか	
手立て	協働的な学びには、相手に思いや考えを分かりやすく説明すること（アウトプットの質を高めること）が大切。そのために教師が特定の状況を提示し、児童はその状況を聞いたり言葉でわかりやすく伝える方法について小集団で考える授業を行った。協働的な学びを支える「伝え方」を、協働的に学べるようにするよう試み。	

学年	教科	単元名
6	総合/国語	分かりやすく伝えよう

支援のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師が提示する状況はできるだけ身近な話題にし、説明方法に集中できるようにする。例「ふえおにのルールを伝えたい（話だけで）」</li> <li>「A店のトマトの価格がB店の2倍だ。（図だけで）」</li> <li>話題提示と児童の説明を複数回実施し、その過程で改善を促れるようにする。（こういうのはトライアルもエラーできるぐらいの回数をおこなうことが大事）</li> <li>扱った事例を基に、どのような状況で、どのような説明が有効かについて整理する。（関係性を示す場合と、順序性を示す場合の違い等）</li> </ul>
子どもの様子・写真	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホワイトボードを使いながら、小集団で伝え方について随分と検討していた。</li> <li>図（イラスト）や言葉、ジェスチャー等で伝えようとしていた。</li> <li>各小集団の説明を聞き、それに対して他の児童が良し悪しを評価。</li> </ul> 
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>対話や作業の場の設定だけで満足しがちな「協働的な学び」だが、そのために必要な基礎的な技能や態度について具体的に指導できたのはよかった。児童は「相手に分かりやすく説明すること」のイメージを持つことができたのではないかと。</li> <li>今後の話し合い活動やプレゼンテーション等で今回の授業の学びの活用を促したい。</li> </ul>

#### ②生成AIを活用した授業づくり

Geminiの導入を機に、生成AIを活用した業務改善に加え、授業改善への取組も増えている。例えば、個別学習用サイトや習熟度確認クイズの作成などである。

8月に千葉県柏市立大津ヶ丘第一小学校長 佐和伸明先生より学校教育における生成AIの役割や活用例等をご教授いただき、児童生徒主体の学習に効果的であることが分かった。そこで、「とにかくやってみる」ところから学校全体で試行錯誤を始めた。

さらに2学期末からは、子どもたちが自ら端末で生成AIを利用する試みも始めた。国語科では文章の推敲、社会科では多面的な考察、理科の実験計画、体育科の練習メニュー考案など、思考活動の支援として活用を進めている。実践を通じ、AIが教材や学びのパートナーとして有効であることを実感している。

1月には大阪教育大学の向田識弘特任准教授を招聘し、7年生理科「光の現象」を題

材に研究授業を実施した。授業後の研修会では、向田先生から具体的な活用方法についてお話をいただいた。授業におけるAIの役割を明確に定義する重要性を改めて認識し、今後の活用方針等、理解を深めることができた。



## 4 研究の成果と課題

### (1) 成果

「情報活用能力ベーシック」を土台とした3年間の取組により、ICTや生成AIを「学びのパートナー」として自律的に活用し、自ら問いを立て、多面的な情報収集や比較検討を行う姿が日常化した。また、「他者参照」を通じて多様な視点を柔軟に取り入れて自分の考えを深め、粘り強く課題解決に向き合う協働的な学びも深まった。このような姿は、学習のみならず日常生活にも生かされており、自身の学び方や成長を客観的に捉える「振り返り」の習慣が、学級活動や部活動等において「自ら課題を見つけ、よりよい集団を目指して主体的に行動する」という自律した態度につながった。

教師においては、全員で話し合いながらカリキュラムを作成することで、「情報活用能力ベーシック」への理解が深まり、「ベーシック」にもとづく実践を積み上げることができた。また、授業づくりの理念を共有し、具体化を職員に委ねたことで、教師も主体的かつ探究的に授業改善に取り組むようになった。教科や学年の枠を超えて情報共有をしたり授業を参観したりする姿に、同僚性も大いに高まったと感じられる。

### (2) 課題

各教科で、「情報活用能力ベーシック」を活用した探究的な学習の在り方は浸透してきた。それを、総合的な学習の時間などで子ども自身が自律的に活用し、自分たちで探究のサイクルを回しながら学習できるよう、さらに段階を上げていきたい。また、毎年人員が入れ替わる中で、教師も子どもも探究する学校文化の実現を目指して、継続的に実践を行っていきたい。

## 5 参考文献

- 日本教育情報化振興会『情報活用能力ベーシック』（2021年）
- 日本教育情報化振興会『情報活用能力を育む授業づくりガイドブック』（2022年）
- 日本教育情報化振興会『情報活用能力を育む授業づくりガイドブック 中学校編』（2023年）
- 日本教育情報化振興会『情報活用能力ベーシックを活用した実践事例集』（2024年）
- 中川一史編著『情報活用能力ベーシック活用ガイドブック』（東洋出版社 2025年）